

韓国語副詞 급히 [kipph^hi] と 서둘러 [sədulla] の意味分析 －日本語の「急に」/「急いで」との対照の観点から－

李 澤 熊

キーワード：日韓対照、類義語、取り掛かりの早さ、ペース、プロフィール

1. はじめに

本稿の目的は、類義関係にある韓国語副詞 급히 [kipph^hi] と 서둘러 [sədulla] について、日本語の「急に」/「急いで」との関連性を指摘しながら、相互の意味の類似点・相違点を明らかにすることである。

この2語は以下の例からも分かるように、「取り掛かりの早さ」という共通の意味特徴を持っていると考えられる。

- (1) 하림은 간호원을 따라 급히 안으로 들어갔다. (KAIST:2208)
(ハリムは看護婦の後について急いで(早く)中に入ってしまった)
- (2) 미미와 철수는 서둘러 안으로 들어갔다. (KAIST:3629)
(ミミと哲秀は急いで(早く)中に入ってしまった)

上記の例における 급히 [kipph^hi] と 서둘러 [sədulla] を日本語に訳すと、「急いで」または「早(速)く」に解釈される。なお、「急いで」と「速(早)く」は「取り掛かりの早さ」、つまり「主体の行為の開始部に注目し、その進行程度が何らかの基準に比べて大きい様子」を表す(李(2006))場合に用いられる。

さて、韓日辞典を調べてみると、급히 [kipph^hi] は「急に」、「速(早)く」、「急いで」の3語が対応すると記述されている。それは、下の例(3)における 급히 [kipph^hi] が「急に」、「速(早)く」、「急いで」のいずれかに、さらに、例(4)における「急に」、「速(早)く」、「急いで」が 급히 [kipph^hi] に対応することからも説明ができる。

- (3) a 숙희는 급히 이불을 펴고 자는 체했다. (KAIST:3638)
(淑姫は急いで(早く)布団を敷いて寝ているふりをした)
- b 마당에서 급히 부르는 소리가 들렸다. "대장님!" (KAIST:1206)
(庭で急に呼ぶ声が聞こえてきた。隊長！)

c 이 사건 이후 남북관계는 급히 냉각되었다. (KAIST:2835)

(この事件以降、南北関係は急に(早く)冷却化した)

- (4) a 車両等の運転者は、危険を防止するためやむを得ない場合を除き、その車両等を急に(급히 [kipph^{hi}]) 停止させ、(中略)(<http://ja.wikipedia.org/wiki/>)
- b おまえはすぐに鎧を脱いで、おれの刀と弓をもち、早く(급히 [kipph^{hi}]) お宮へ行ってくれ。それから誰かにこう云うのだ。(宮沢賢治『銀河鉄道の夜』:259)
- c 山と山の間から流れ出た川は太古のままの静けさを持続しながら海に消えていく。その河口の光景までも故郷のそれと同じだった。翌朝急いで(급히 [kipph^{hi}]) 寮を出て二人は汽車に乗った。その出発からして加藤には異様なものだった。(新田次郎『孤高の人』:88)

しかし、下の例(5)から分かるように、「急に」、「速(早)く」、「急いで」を급히 [kipph^{hi}]で言い換えられない場合があることから、급히 [kipph^{hi}]は「急に」、「速(早)く」、「急いで」のいずれとも厳密には対応しないと言える(注1)。

- (5) a 先日、急に(*급히 [kipph^{hi}]) メールが送信できなくなった。
(<http://www.rbbtoday.com/column/ittoku/20060804/>)
- b だが、彼は明らかに私を信用しきってはいない。例えば、彼が寝るのは私が寝てからだし、いつも私より速く(*급히 [kipph^{hi}]) 起きている。
(<http://freebbs.around.ne.jp/article/m/marscoms/92/phylljo/zrlefk.html>)
- c ホテルに着いたのは2時30分ごろで次の日は結婚式だったので急いで(*급히 [kipph^{hi}]) 寝た。(<http://blogs.yahoo.co.jp/hankyotiger/folder/876352.html>)

以上のように本稿の考察は、급히 [kipph^{hi}]と서둘러 [sədullə]の類似点・相違点を明らかにすることによって、급히 [kipph^{hi}]が「急に」、「速(早)く」、「急いで」のいずれとも厳密には対応しないことを確認することにもつながる(注2)。

ここで、本稿の構成について簡単に述べておく。

まず、2.では급히 [kipph^{hi}]と서둘러 [sədullə]の類似点・相違点を明らかにする前提として、初山(2005)を取り上げる。初山(2005)の研究は類義表現を認知言語学的観点から定義・分類したものである。

次に、3.では급히 [kipph^{hi}]と서둘러 [sədullə]を取り上げ、両語の類似点・相違点を明らかにする。

最後の4.は本稿のまとめである。

2. 前提となる理論

分析に入る前に、本節では、考察対象とする語の類似点・相違点を明らかにする前提として、初山 (2005) を取り上げる。

初山 (2005:579-583) の研究は、類義表現の意味の異なりの諸相を、認知言語学の枠組みから明らかにしたものである。以下、その内容を概観する。

まず、類義表現 (類義語・類義句・類義文を含む) をプロトタイプカテゴリー (注3) と考え、プロトタイプの類義表現を「指示対象・指示範囲 (プロファイル) が同一である複数の表現 (プロトタイプの類義文: 真理条件的意味が同一である複数の文)」と定義し、次のような例をあげている。

例) あした／みょうにち、盲腸 (炎) ／虫垂炎
花子が太郎をなぐった。／太郎が花子になぐられた。

また、「この定義に基づけば、類義表現の意味の違いは、必然的に、同一の事物・事態に対して異なる捉え方・解釈 (construal) をすることができるという人間が有する認知能力に還元できることになる」としている。

さらに、プロトタイプから拡張した (非プロトタイプの) 類義表現を次のように定義している。

類義表現: 同一の対象を示しうる (指す場合がある) 複数の表現

例) 動物／犬、木／松 [上位語と下位語の関係]

門のところに誰からいる。／門の前に怪しい男が立っている。[描写の精密さの異なる文]

この花は日本語で「サクラ」と言う／呼ぶ。[一方の語 (句) の複数の意味のうちの1つが、他方の語の意味 (の1つ) と同一]

初山 (2005) は、以上の事物・事態に対する様々な捉え方 (の違い) の観点から、類義表現を大きく 10 に分類している。例えば、「プロファイルは同一であるが、ベースは異なる」ものとして「land [↔ sea] / ground [↔ air]、陸上 [↔ 海上] / 地上 [↔ 空中・地下]」、 「視点の違う」ものとして「shore [視点が水上] / coast [視点が陸上]、A さんが名古屋から東京に行った。 / A さんが名古屋から東京に来た。」などがあげられる。

以下では、韓国語副詞급히 [kipph^{hi}] と서둘러 [sədullə] を、初山 (2005) が提案してい

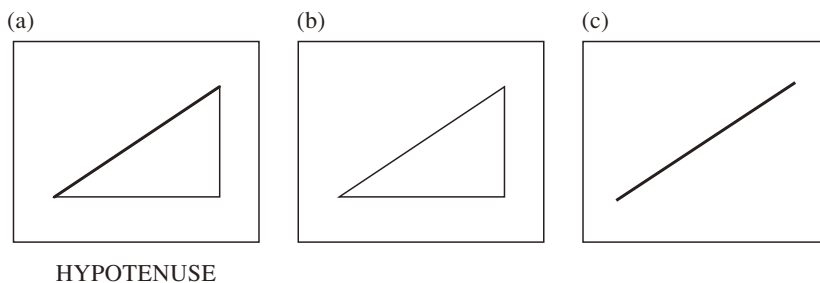
る「類義表現の定義・分類」に従って、分析を行う。その中で、本稿で考察対象とする語は¹⁾ 朶山(2005)で分類されている類義表現のタイプの中で「プロフィールは同一であるが、ベースが異なる」ものであるということを示す。

それでは、ここで本稿で用いる「ベース (base)」と「プロフィール (profile)」という用語について簡略に説明する。これらは Langaker(1987,1988)の用語で、辻(2002)は、次のように解説している。

認知文法は、百科事典的意味論の立場をとり、ことばの意味は複数の認知領域において記述される。ある特定の認知領域においても、全ての構造が等しく扱われるのではなく、焦点化され、際だちの大きいプロフィールと呼ばれる部分と、そのプロフィールの背景的要素として機能するベースに分かれる。

例えば、直角三角形の「斜辺」という表現の意味記述においては、空間という認知領域における形状が最も重要である。この領域において、想起される概念内容の全体、すなわち直角三角形の形状全体がベースとなる。というのは、「斜辺」の意味を規定する場合には、1本の直線のみを想起するだけでは不十分であり、直角三角形という3本の直線からなる形状全体が概念化されなければならないからである。しかし、「斜辺」ということばは、当然この形状全体を指し示すわけではない。言語使用者は、この形状全体を心に思い浮かべたうえで、その部分構造である斜めの直線に注目し、その部分のみに言及する場合の表現が「斜辺」である。このように、特定の言語表現が直接指し示す部分をプロフィールと呼ぶ。(p.236、下線は引用者)

<図 1 > Langacker(1988:59)



3. 급히[kipph^{hi}] と서둘러[sɔdulle]の意味分析

本節では、類義関係にある급히[kipph^{hi}]と서둘러[sɔdulle]を取り上げ、両語の意味の類似点・相違点を明らかにする。

まず、次の例を見てみよう。

- (6) 미미와 철수는 서둘러 (급히) 안으로 들어갔다 .(KAIST:3629)
 (ミミと哲秀は서둘러 [sədullə] (급히 [kipph^{hi}]) 中に入っていた)
- (7) 캄캄한 밤이 점점 더 무서워져 급히 (서둘러) 집으로 돌아왔습니다 .(KAIST:484)
 (真っ暗な夜がだんだん怖くなり、급히 [kipph^{hi}] (서둘러 [sədullə]) 家に帰ってきました)

以上の例は서둘러 [sədullə] と급히 [kipph^{hi}] をそれぞれ置き換えられ、また文の持つ意味もほとんど変わらない。

ここで、両語の類似点 (同一のプロファイル) を確認すると、上の例から分かるように、급히 [kipph^{hi}] と서둘러 [sədullə] はともに「取り掛かりの早さ」つまり、「主体の行為の開始部に注目し、その進行程度が何らかの基準に比べて大きい様子」を表すととらえることができる。例えば、例 (6) は「ミミと哲秀が中に入っていく際の様子」を表しているが、「入っていく」という行為は何らかの基準に比べて「その進行程度が大きい (間をおかず、さっさと入っていた)」ということになる。

しかし、以下の例 (8) ~ (10) は서둘러 [sədullə] を급히 [kipph^{hi}] で言い換えてみると、この文脈では、不可能かやや不自然な文になる。このことから、両語は違う意味の側面も持っていると考えられる。

- (8) 다음날 시험을 위해서 우리들은 서둘러 (*급히 [kipph^{hi}]) 잤다.
 (翌日の試合のために、私たちは서둘러 [sədullə] (*급히 [kipph^{hi}]) 寝た)
- (9) 여성들이 가장 좋아하는 브랜드중의 하나이다 . 계절이 바뀔 무렵엔 항상 신상품이 들어오기 때문에 서둘러 (?? 급히 [kipph^{hi}]) 가면 선택의 폭이 더욱 넓어진다 .(<http://kr.blog.yahoo.com/noonkni2002>)
 (女性達が一番好きなブランドの一つである。季節が変わる頃には必ず新商品が入るので서둘러 [sədullə] (?? 급히 [kipph^{hi}]) 行けば、選択の幅がさらに広がる)
- (10) 장기주택마련저축에 가입하지 않았다면 연말까지 서둘러 (?? 급히 [kipph^{hi}]) 가입하자 .(http://blog.daum.net/openmarket_01)
 (長期型住宅購入貯蓄に加入していないなら、年末までに서둘러 [sədullə] (?? 급히 [kipph^{hi}]) 加入しよう)
- (11) 모기가 들어오지 못하게 서둘러 창문을 닫았다 .
 (蚊が入らないように서둘러 [sədullə] 窓を閉めた)

まず、以上の例は「主体（人間）の行為の開始直前の様子に注目している」ととらえることができる。例えば、例(8)の場合は「寝るまでの直前の様子」が問題となっていると考えられる。つまり、歯を磨く、布団を敷くなど、寝る前の一連の行為が想定されるということである。また、例(10)は「연말까지（年末までに）」という表現からも分かるように、「加入する」という行為の開始直前（前段階）の様子」に注目していると言える（注4）。

また、以上の例からは「主体の行為の開始直前の進行程度が問題となっており、またその程度というものは、何らかの基準に比べて大きい」というようにとらえられる。例えば、例(11)は主体が「窓を閉める」という行為に移る際の様子を表しているが、それは何らかの基準に比べて「その進行程度が大きい（間をおかず、さっさと）」ということになる。

以上のことから、서둘러 [sədulla] の意味は<主体の><行為の開始直前の様子に注目し><その進行程度が><何らかの基準に比べて><大きい様子>を表すと記述することができる。

続いて、급히 [kipph^hi] を取り上げる。以下の例を見てみよう。

- (12) 기름 값을 줄이는 방법 및 운전 요령 : 가속 페달을 급히 (*서둘러 [sədulla]) 밟을 때 연료 소비 역시 급격하게 늘어난다 .(http://blog.daum.net/hgy2k/6390139)
(ガソリン代を減らす方法及び運転要領 : 加速ペダルを급히 [kipph^hi] (*서둘러 [sədulla]) 踏むと、燃料消費量もまた急激に増える)
- (13) 딸꾹질을 멈추게 하는 방법 중 가장 잘 알려진 것이 밥을 한꺼번에 급히 (*서둘러 [sədulla]) 먹거나, 코를 막고 물을 한컵 마시는 것이다 .
(http://blog.daum.net/kjs1464)
(シャックリを止める方法で一番良く知られているのは、ご飯(お米)を一気に 급히 [kipph^hi] (*서둘러 [sədulla]) 食べる(飲み込む)か、鼻をふさいでお水を一杯飲むかである)
- (14) 이 사건 이후 남북관계는 급히 (*서둘러 [sədulla]) 냉각됐었다 .(KAIST:2835)
(この事件以降、南北関係は급히 [kipph^hi] (*서둘러 [sədulla]) 冷却化した)
- (15) 밤이 되자 기온은 급히 (*서둘러 [sədulla]) 내려가고 추웠다 .(KAIST:2195)
(夜になると気温が급히 [kipph^hi] (*서둘러 [sədulla]) 下がり、寒かった)

まず、以上の例は「ある事柄（主体の行為や出来事など）の開始直後の様子に注目している」ととらえることができる。例えば、例(12)の場合は「車などのペダルを踏んだ直後の様子」が問題となっていると考えられる。つまり、その踏み方によって燃

料消費量が大きく変わるということである。また、例 (14) も「南北関係が冷却化する」という出来事の開始直後の様子」に注目していると言える。

また、以上の例では「事柄の開始直後の進行程度」が問題となっており、またその程度というものは、「何らかの基準に比べて大きい」というようにとらえられる。例えば、例 (13) は「一気に」という表現からも分かるように、「ご飯を口に入れてから食べる（飲み込む）際の進行程度が大きい」と解釈することができる。また、例 (15) の場合も「気温が下がり始めるところに注目し（言い換えれば、開始直後に注目し）、その進行程度が大きい」ととらえることができる。

以上のことから、급히 [kipph^{hi}] の意味（＜別義 1＞）は＜ある事柄の＞＜開始直後の様子に注目し＞＜その進行程度が＞＜何らかの基準に比べて＞＜大きい様子＞を表すと記述することができる。

ところが、급히 [kipph^{hi}] は今記述した意味と異なる意味で用いられることがある。例えば、次のような例の場合である。

(16) 길이 왼쪽으로 급히 꺾이면서 멀리 산자락 아래에 까지 이어졌고 (중략) (KAIST:2092)

（道が左の方に급히 [kipph^{hi}] 曲がりながら、遠くの山の麓まで続いており (中略)

(17) 20 분 정도 오르면 왼쪽으로 갈림길이 나오는데, 거기부터 고도가 급히 낮아진다. (<http://blog.daum.net/climbsoc>)

（20 分ほど登ると左に分かれ道があるが、そこから高度が급히 [kipph^{hi}] 低くなる）

以上の例は、급히 [kipph^{hi}] の＜別義 1＞と違って「時間の経過」を伴わない単なる事柄の状態を表すのみである。また、その状態というのは「傾斜、角度、高度」などを指し、その度合いが「何らかの基準に比べて大きい」ことを表しているのとらえられる。例えば、例 (16) は「道が左の方に曲がっている度合い（つまり、角度）が何らかの基準に比べて大きい」というようにとらえられる。また、例 (17) の場合は「分かれ道の付近の高度が何らかの基準に比べて大きい」というように解釈することができる。

以上のことから、급히 [kipph^{hi}] のもう一つの意味（＜別義 2＞）は＜ある事柄の＞＜傾斜・角度・高度等が＞＜何らかの基準に比べて＞＜大きい様子＞を表すと記述することができる。

さて、＜別義 2＞は＜別義 1＞と類似性が認められることから、メタファーによる意味の転用であると考えられる（注 5）。つまり、＜ある事柄の＞＜変化の度合いが＞＜何らかの基準に比べて＞＜大きい様子＞という共通の意味特徴が認められるということである。なお、＜別義 1＞と＜別義 2＞の相違点は、先に述べたように「時間の

経過を伴うか否か」にある。

それでは、ここで서둘러 [sədulla] と급히 [kipph^hi] の相違点（ベースの違い）について検討する（注6）。結論を先取りすると、両語の違いは次のようにまとめられる。

- ・ 서둘러 [sədulla] は「主体の行為の開始直前の様子」に注目し、「その進行程度が何らかの基準に比べて大きい様子」を表す場合に用いられる。それに対して、급히 [kipph^hi] は「事柄（行為・出来事）の開始直後の様子」に注目し、「その進行程度が何らかの基準に比べて大きい様子」を表す場合に用いられる。
- ・ 서둘러 [sədulla] はもっぱら人間の行為にのみ用いられるのに対し、급히 [kipph^hi] は人間の行為の他に、時間の経過を伴う出来事にも用いられる。

以上のことを例文に基づいて説明してみよう。

まず、上の例(8)~(10)における서둘러 [sədulla] は급히 [kipph^hi] で言い換えることができない（または、不自然な文になる）。それは、文の状況から分かるように「主体の行為の開始直前の様子」に注目しているからであると考えられる。例えば、例(8)は「歯を磨く、布団を敷くなどの寝るまでの一連の行為をさっさと済ます」というように解釈することができ、「主体の行為の開始直前の様子」に注目していることが分かる。この場合、급히 [kipph^hi] が用いられないのは、「寝た直後の様子」に注目するということが考えられないからである。

また、例(9)も「新商品が入ってから買いに行くまでの様子」が「間をおかず、ぐずぐずせずに」というように、「主体の行為の開始直前の様子」に注目していると考えられる。この場合、급히 [kipph^hi] が用いられないのは、「主体の行為の開始直後の様子」に注目するということが想定しにくいからである。

一方、例(12)~(15)における급히 [kipph^hi] は서둘러 [sədulla] で言い換えることができない（または、不自然な文になる）。それは、文の状況からも分かるように「主体の行為の開始直後の様子」に注目しているからであると考えられる。例えば、例(12)は「加速ペダルを踏み始めてからの様子、つまり踏む度合いが何らかの基準に比べて大きい」というようにとらえられ、「主体の行為の開始直後の様子」に注目していることが分かる。この場合、서둘러 [sədulla] が用いられないのは、「行為の開始直前の様子、つまり加速ペダルを踏む前の様子」に注目するということが考えられないからである。

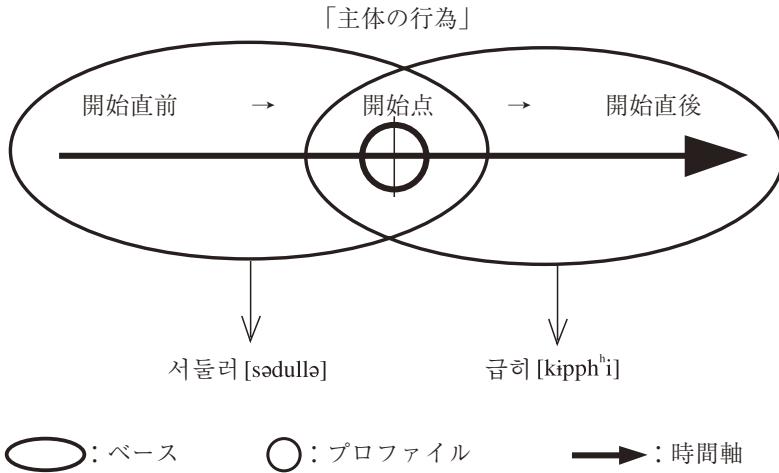
また、例(13)も「一気に」という表現から分かるように、「ご飯を口に入れてから食べる（飲み込む）際の進行程度が何らかの基準に比べて大きい」と解釈することができ、「主体の行為の開始直後の様子」に注目していることが分かる。この場合、서둘러 [sədulla] が用いられないのは、文の状況から「行為の開始直前の様子、つまり食べ

る（飲み込む）前の様子」に注目するということが考えられないからである。

さらに、例 (14)、(15) のように급히 [kipph^{hi}] は人間の行為の他に、時間の経過を伴う出来事にも用いられるのに対し、서둘러 [sədulla] は人間の行為にしか用いられない。従って、このような文には서둘러 [sədulla] が用いられない。

以上のように、서둘러 [sədulla] と급히 [kipph^{hi}] の相違点について見てきたが、このことを図で示すと次のようにまとめられる。

< 図 2 >



「時間の経過を伴うある行為の開始」を考えた場合、< 図 2 > のように、「開始直前 → 開始点 → 開始直後」というプロセスが想定できる。

この場合、서둘러 [sədulla] と급히 [kipph^{hi}] はともに「取り掛かりの早さ」、つまり「主体の行為の開始部に注目し、その進行程度が何らかの基準に比べて大きい様子」を表すととらえることができる（つまり、同一のプロファイル）。

ただ、서둘러 [sədulla] の場合は「開始点」と「開始直前」の部分がベースとなるのに対し、급히 [kipph^{hi}] は「開始点」と「開始直後」の部分がベースとなる。

ここで、서둘러 [sədulla] と급히 [kipph^{hi}] が両方用いられる例を見てみよう。

(18) 철수는 서둘러 (급히) 미미가 있는 정원으로 나갔다. (KAIST:3629)

(哲秀は서둘러 [sədulla] (급히 [kipph^{hi}]) 미미のいる庭に出た)

(19) 정원사 부부는 급히 (서둘러) 집안으로 되돌아왔습니다. (KAIST:1188)

(庭園師夫婦は급히 [kipph^{hi}] (서둘러 [sədulla]) 家に帰ってきた)

以上の例は「庭に出る」、「家に帰ってくる」という行為を行う際の様子に注目し、「その進行程度が何らかの基準に比べて大きい様子」を表すと解釈することができる。

ただし, 서둘러 [sədulla] を使った場合は、「行為の開始直前の様子」が想起されるため, 例えば, 例 (18) においては「庭に出る前の様子」が「ぐずぐずせずに, さっさと」というようなニュアンスが感じ取れる。

それに対して, 급히 [kipph'i] を使った場合は、「行為の開始直後の様子」が想起されるため, 例えば, 例 (19) においては「動き出してからの様子」の進行程度が何らかの基準に比べて大きい」というようにとらえられる。

4. まとめ

以上, 本稿では類義関係にある韓国語副詞 급히 [kipph'i] と 서둘러 [sədulla] を考察対象とし, 相互の意味の類似点・相違点を明らかにした。以下, 分析結果を簡単にまとめておく。

まず, 급히 [kipph'i] と 서둘러 [sədulla] の意味の分析結果をまとめると次のようになる。

서둘러 [sədulla]

<主体の><行為の開始直前の様子に注目し><その進行程度が><何らかの基準に比べて><大きい様子>

급히 [kipph'i]

<別義1> : <ある事柄の><開始直後の様子に注目し><その進行程度が><何らかの基準に比べて><大きい様子>

<別義2> : <ある事柄の><傾斜・角度・高度等が><何らかの基準に比べて><大きい様子>

なお, <別義2> は <別義1> と <ある事柄の><変化の度合いが><何らかの基準に比べて><大きい様子> という共通の意味特徴が認められることから, メタファーによる意味の転用であると考えられる。また, <別義1> と <別義2> の相違点は, 「時間の経過を伴うか否か」にある。

次に, 相互の意味の類似点・相違点については, 以下のようにまとめられる。

類似点 (同一のプロファイル)

<主体の行為の開始部に注目し、その進行程度が何らかの基準に比べて大きい様子>

相違点 (ベースの違い)

서둘러 [sədullə] は「主体の行為の開始直前の様子」に注目し、「その進行程度が何らかの基準に比べて大きい様子」を表す場合に用いられる。

それに対して, 급히 [kipph^{hi}] は「事柄 (行為・出来事) の開始直後の様子」に注目し、「その進行程度が何らかの基準に比べて大きい様子」を表す場合に用いられる。

また, 서둘러 [sədullə] はもっぱら人間の行為にのみ用いられるのに対し, 급히 [kipph^{hi}] は人間の行為の他に、時間の経過を伴う出来事にも用いられる。

注

注1 韓国語の副詞 (的表現) に서둘러 [sədullə] と빨리 [p'alli]/일찍 [iltʃ'ik] があるが、日韓辞典を調べてみると、それぞれ「急いで」と「速 (早) く」が対応していることが分かる。

注2 급히 [kipph^{hi}] と서둘러 [sədullə] は, 빨리 [p'alli]/일찍 [iltʃ'ik] ととも類義関係にあるが、詳しい考察は今後の課題としたい。

注3 河上 (1996) は「カテゴリー化」について次のように述べている。

私たちは日常生活において、様々な事物を知覚し、経験する。その量は膨大なものであり、一つ一つを記憶にとどめようとするとは大変なことになる。しかし、私たちはそれらの事物を効率的にグループ分けすることができる。つまり私たちには、事物から何らかの類似性や一般性を抽出することで、事物間にあるまとまりを認識し分類することのできる能力が備わっていると考えられる。このような事物をグループにまとめる認識上のプロセスを、一般的にカテゴリー化という。(河上 (1996:27))

また、言語の様々な側面に関するカテゴリー化の問題について、プロトタイプ論的見方を採用したことを認知言語学の根幹をなす特徴の一つとしてあげている。

さらに、プロトタイプを「カテゴリーの成員の中でもより中心的で、そのカテゴリーを代表すると思われるもの (河上 (1996:209))」と定義した上で、次のように述べている。

そして私たちが事物をカテゴリー化する場合、そのプロトタイプを核とし、その周りにさまざまな成員を位置づけることで、全体を構造化しているとみなす。この考えに基づけば、カテゴリーの成員は、その成員らしさという点では一様ではなく、中にはプロトタイプに近いものもあれば、それとはかけ離れた周辺的なものがあつたり、成員間で段階性がみられることになる。(河上(1996:32))

注4 ここで「行為の開始直前」といった場合の時間の幅は、客観的・絶対的な値ではなく、主体の判断による主観的・相対的な値であると考えられる。つまり、「年末までに加入する」といった場合、客観的に考えれば、かなりの時間の幅を持ったものであるが、それが主体によって「短いもの」と判断されれば「開始直前」としてとらえられるということである。

注5 メタファー(隠喩)とは「2つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。」(柊山(2003:76))

注6 서둘러 [sədulla] は급히 [kipph'i] が<別義1>として用いられる場合に類義関係にあると考えられるため、以下では<別義1>とのみ比較する。

参考文献

- 李澤熊(2006)「副詞の性質に関する一考察～類義語分析を通して～」、『名古屋大学日本語・日本文化論集』第13号, pp.41-69, 名古屋大学留学生センター.
- 河上誓作(1996)『認知言語学の基礎』, 研究社出版.
- 辻幸夫(2002)『認知言語学 キーワード事典』, 研究社.
- 柊山洋介・深田智(2003)「第3章 意味の拡張」, 松本曜編『認知意味論』(シリーズ認知言語学入門第3巻), pp.73-134, 大修館書店.
- 柊山洋介(2005)「類義表現の体系的分類」, 『日本認知言語学会論文集』第5巻, 日本認知言語学会, pp.579-583.
- Langacker, R. W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar Vol.1*, Stanford: Stanford University Press.
- Langacker, R. W. (1988) "A View of Linguistic Semantics." In Brygida Rudzka-Ostyn, ed., *Topics in Cognitive Linguistics*. pp.49-90. Amsterdam: John Benjamins.

例文出典

- (1) CD-ROM 版『新潮文庫の 100 冊』(1995)
- (2) 検索エンジン다음 넷 (<http://www.daum.net/>)
- (3) 検索エンジン google(<http://www.google.co.jp/>)
- (4) KAIST Concordance Program(<http://csfive.kaist.ac.kr/kcp/>)

